

山行報告書

神戸勤労者山岳会

- 1 参加者 L 保木本、西、仲島、湊、宮島
- 2 山城・ルート 笠ヶ岳西面/金木戸川小倉谷
- 3 交通手段 車
- 4 行動記録

2018/8/11(土)-8/13(月)

1日目		山行	8時間7分	休憩	0分	合計	8時間7分			
S	スタート地点	07:35	15:42	宿泊地(広河原1400m)	泊					
2日目		山行	9時間58分	休憩	0分	合計	9時間58分			
泊	宿泊地(広河原1400m)	06:42	16:40	宿泊地(奥の二俣2070m)	泊					
3日目		山行	10時間1分	休憩	1時間21分	合計	11時間22分			
泊	宿泊地(奥の二俣2070m)	06:37	10:11	笠ヶ岳	10:59	11:10	笠ヶ岳山荘	11:14	11:39	抜戸岩
12:57	笠新道分岐	12:59	分岐指導標(仮称)	14:01	杓子平	14:09	16:44	笠新道登山口	16:52	
17:04	中崎橋	17:20	お助け風穴	17:35	登山口(双六岳・笠ヶ岳方面)	17:40	17:46	新穂高温泉駅	17:54	
17:56	中崎山荘 奥飛驒の湯	17:59	ゴール地点(新穂高)	G						

5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a 山行は予定の内容・日程で行動出来たか

予定通りに2泊3日で抜けられた。

天気は下り坂だったが、かえって初日の林道歩きがつかなく良かった。

初日のルートは昨年に経験済みであり、正しい突破の仕方も予習済みだったので早く進めた。

予定通りに行動できた最大の理由は、【水量】で、去年と比べて驚くほど少なかった。小倉谷への渡渉でも腰までの水量でへつって突破できた。

b 事故に繋がりそうな要因（ヒヤリハット）が発生したか 発生した場合は具体的に記す

二日目の夜 18:30 頃に焚火を囲んでいる最中に雨が激しく降り出した。慌てて全員ツェルトに避難したが、一番沢に近い低地に張っていたNさんのツェルトがものの15分程度で増水した沢の中に浸水してしまった。本人は体一つで他のツェルトに避難したが、このままでは飯盒やNさんのツェルト、荷物が流されてしまう恐れがあったため、HとMが雨の中自分のツェルトから外に出てNのツェルトを解体し荷物を回収した。雨は一時間もしないうちに止み、沢の水はあつという間にひいた。

→沢はあつという間に増水するため、平地で便利であっても沢の流れの近くには張らずに高台にはるべきだった。

c その他、ルートに関する情報・気がついた事等

小倉谷はさすがは北アルプスの沢でスケールが大きく長かった。2mCSの泳ぎが核心かと思っていたが、その上の登攀が核心であった。30-40mの滝が四つもありそれぞれ大きく高巻いたが、これだけ1つの沢で高巻いた経験は初めてだった。泳ぎではなく登攀の沢でトポにないところでも巨岩

がゴロゴロしており、大きな荷物を背負って登るのに苦勞するところが多く、何回もお助け紐が出た。クライミング能力がないと苦勞するし、そもそも突破できない。最後の詰めではうまくルートファインディングできれば今回のように笠ヶ岳の山頂にダイレクトに出ることができるが、ガレガレで大岩でも浮いているところを通過しなければいけない。

写真・感想はヤマレコ参照

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-1556345.html>

報告者氏名 宮島 2018年8月17日

【ヤマレコより】

昨年度 2mCS 滝が突破できずに敗退した小倉谷にリベンジを果たすことができた。正直しんどかった。昨年度の経験から 2mCS が核心であるとは大したことないだろうと思っていたが、その後の特に 2 日目の後半が体力的にもルートのにも大変だった。

ヤマレコを始めたきっかけは、一年前に敗退した小倉谷の同日に成功したパーティーの記録がヤマレコにあり、自分も記録をヤマレコで書いてみようと思ったから。ちょうどヤマレコを初めて一年、リベンジも達成してひとまずは沢登りの集大成になったと思う。

<1 日目>

今年は曇っていたので渡渉地点までの林道歩きも昨年よりは楽で、予定よりも 30 分は早く着いた。ゴルジャーの要望で第一ゲートで最初の休憩をしたが、みんなが休憩中に何も言わずに先に出発したのはビビった。

渡渉地点に着いて水量の少なさに驚いた。去年は流されながらなんとか泳いで突破したが、流されたら下流の取水口までいってしまうのではないかと思ったほどの水量だった。今年はどうやっても流されることもないくらい衝撃的に少なかった。へつって簡単に突破できロープを出す必要もなかった。自分だけはあえて泳いで突破した。

その後も去年の水量では高巻かなければ突破できなかった「門」も水線を突破できたし、去年 N さんが流されそうになった飛び石ジャンプもなんの問題もない。難しいへつりで突破した地点もなんの問題もなし。予定よりも早い時間に去年の 1 泊目の地点へ到達。水量の違いであまりにも難易度が異なる。

その少し上から大岩の地点。去年は行きも帰りも右岸を高巻いて怖い思いをしたため、今年はきちんと予習してきたルートで正面突破。なおリードは基本的に闘将（他のメンバーは登攀力が低いので）。最初の大岩は右側をショルダーで突破。手が悪いので少し苦勞する。次の大岩は記録によっては三段ショルダーをしていたが、カム+アブミで突破し、15m 滝の下に出る。ここで記念撮影し、左岸を巻くと簡単に広河原に出た。あまりにも簡単な高巻きだったので、去年の敗退時に右岸から下って懸垂で降り立ったのはいったいなんだったのだろうかと思う。

少し上の地点で幕営。他に 1 パーティーも来る。あまり寒くないなと思ってシュラフカバーだけで寝たが、夜中に寒くなってきたので、ダウンも着て、シュラフも出して寝た。最初から出していれ

ば暖かく寝れたので反省。

<2日目>

7:30頃出発。途中の大岩の登りでお助け紐を出してもらおう。よく見ると近くの流木に青いスリングが残置してある。昨年の敗退での下降時にひっかかって切った部分の残りである。一年間そのまま残っていた。回収しようと思ったが流木の位置が変化しており手が届かなかった。

1時間ほど行くと昨年敗退したCS滝があった。まったくもって水量が少ない。昨年はCS岩の上まで水が流れていたが、今年はいたって平和。闘将が昨年のリベンジを果たすべくリードで突破。その上の岩棚のへつりのほうがいやらしく、30mロープをFIX。Nさんが足を滑らして落ちたもののFIXロープのおかげで滝まで落ちなかった。(トポでは右巻きだったので一度滝上に降りるのが正解?)

赤いスリングの滝では赤いスリングがほとんどなくなっていたが、かわりに紫のスリングが足してあった。ここも闘将のリードで登るが思ったよりは簡単。ただし自分は滝へのへつりで苦労した。トポには懸垂5mと書いてあるが巻かなかったので懸垂はしなかった。

- ・40m滝では高巻きしたが、踏み跡はなく不明瞭でトポでは15分と書かれているが45分ほどかかる。(先頭闘将)
- ・両門の滝では最初の巻きはうまく踏み跡をたどっていったものの、2つ目の高巻き地点が分からずに探す。トポと照合してどうやらスタレ10mまで上がってしまっていたらしく戻ると、2条7mのすぐ上にそれらしきところがあり、突破する。(先頭)
- ・2段40mは下の右壁が悪くリードの闘将がこの沢での一番の核心とのことで苦労していた。残置ハーケンが1つあるもののグラグラで怖い。
- ・上の高巻きは踏み跡があり明瞭(先頭ゴルジャー)
- ・30m滝は左から巻くが途中が不明瞭、運よくきれいに滝の落ち口に出た(先頭)

奥の二俣で幕営。この日は一日の行程が長く、大きな高巻きも4回もあり大変疲れた。

夜に食事準備をしているときに雨が降り始めて慌ててツェルトの中に潜り込む。ちょうどアルファ米だけ作ったところで、香るカレーを戻すお湯が準備できていない段階だった。思案して粉末の雑炊のもとをそのままできあがったアルファ米に入れて食べる。思ったよりもおいしく食べられた。

雨足が強くなってきて雷雨になった。沢近くの岩の上に置いていた沢道具一式が流されないか心配していたところ、一番沢沿いの低地にツェルトを張っていたNさんが、「ゴルジャー君、ツェルトの中に入れてください」と夜這い?をかけているではないか!

これはもしかするとやばいのか?と思い、面倒だがカップを着て、雨の中、外に出るとちょうど闘将もカップを着て飛び出してきた。沢は増水しており、焚火をしていた地点は完全に水没し、Nさんのツェルトも完全に沢の流れの中に浸水していた。まずは自分の沢道具を避難させ、さらに流されかかっていた焚木上の飯盒も避難させ、最後に二人でNさんの荷物とツェルトを片付けた。(自分の荷物とツェルトを放置して自分だけ避難?したNさんには衝撃です)。雨は1時間もたたずにやんだが、わずか数十分程度の雨であつという間に増水する沢の恐ろしさを目の前で見せられた。

自分は沢の近くの低地は何かあったら嫌だなあと思って焚火には遠いが高めのところに張っていたのが良かった。雨が上がると星が大量に見えてきれいだった。雨で冷えたので焚火をやり直し、体を温めてお湯をテルモスに入れてから 22 時頃に就寝。放射冷却で冷えるので濡れた服は着替えてダウン、シュラフを出して完全防寒で寝た。

<3 日目>

朝から小雨がぱらつくあいにくの天気。6:40 頃出発。最初の 15m 滝は左岸を登る。その後は小さな滝が多数出てきたが二日目に比べたらたいしたことはない。一か所だけお助け紐を出してもらった。どんどん沢は狭まり急になってくる。4mCS は問題なく高巻き、8m 滝では少々巻き方に手こずる。水が切れる分岐で最後の水を補充し、分岐を左へ取る。上部へ行くと不安定なゴーストになりどの石も浮いているため落石に細心の注意を払いながら進む。最後はたまたま詰めた岩稜がちょうど山頂の裏手であり、きれいに山頂へ飛び出すことができた(10:40)。山頂へいた単独の方に「何時間かかりましたか？」と聞かれて、ゴルジャーが「3 日」と即答。単独行の方は一体どう思ったのだろう。

さて下山も大変だ。クリヤ谷経由でも良かったが、もと黒部小屋で働いていたゴルジャーの進言に従い笠新道経由で新穂高に下山することに。天気が悪くガスっているため濡れた服が寒い。笠新道分岐の少し手前で沢靴からアプローチシューズに着替えた。車回収の時間がかかるので、もっとも早い闘将に先に降りてもらうために、笠新道からは各自のペースで別々に下山した。結局闘将は 16:05 下山で、自分は 4 番手で 17:30 頃下山。最後尾は 18:30 頃下山で 2 時間以上も差が開いた。

平湯の森で温泉に入って全身の疲労を感じ、5 月の明神岳東稜の帰りに見つけた高山の台湾料理店で食べて帰宅。翌日は筋肉痛の全身を休ませて回復。ようやく一年の課題が終わった。

以上